



■ 9月の安全管理標語 ■  
9月は防災月間です。災害への備えを確認しましょう。

2023年は、関東大震災（1923年9月1日発生）から100年の節目に当たる年です。  
大地震が発生した場合の対応として、本学の初動行動指針「①揺れている間は基本的に動かない ②身の安全を確保 ③可能な場合はドアを開けて脱出口を確保」、及び建物ごとの一次避難場所・部局単位の二次避難場所への避難が決められています。この機会に、個人・研究室・部局における防災体制について見直してみてください。  
各部局では年に1回、防災訓練も実施されます。是非ご参加ください。

#### ■研究室・事務室での備え～産業医巡視の指摘事項から～

各キャンパスで行われている産業医巡視では、各部屋の危険な箇所や注意が必要な箇所を産業医が指摘し改善を促すことで事故防止に取り組んでいます。よくある指摘の例を紹介しますので、ご自身の居室に当てはまる点がないか確認してみてください。

##### ○産業医からのよくある指摘事項

- ☐ 棚の転倒防止対策がされていない。
- ☐ 床に物が置かれていて、避難経路が確保できていない。
- ☐ 緊急時用連絡網の情報が古く、更新されていない。
- ☐ 火災・震災時の避難経路に物品が積まれていたり、可燃物が保管されたりしている。

#### ■安否確認サービスに登録※を行いましょう。（※最新の情報を登録してください）

本学では、災害時に構成員の安否を確認する安否確認サービスを導入しています。メールの受信には最新のアドレス登録が必要になるため、必ず人事情報システム・学務システム（UTAS）より登録・更新をお願いします。

**10月13日（金）**には、安否確認訓練を実施予定です。回答用URL、メール返信、またはアプリから回答（1分程度）するだけで完了しますので、是非ご参加ください。

> 安否確認サービスの登録方法は[こちら](#)から確認してください。

#### ■マイボトル持参・帰宅前にも給水で環境に優しく&災害に備える

SDGsの観点から利用が推進されているマイボトルですが、毎日の給水も少しの工夫で災害の備えになります。  
帰宅する時、鞆の中に水分は入っていますか？もし災害が発生し電車が止まったら、何時間も車内にいなければならないこともあります。帰宅する時には水分を持っていないという人も多いかもしれませんが、帰宅前にも水分を補充してから帰るようにしてみたいでしょうか。帰宅途中の熱中症・脱水症状の予防にも繋がります。学内には給水スポット（ウォーターサーバー）が設置されている場所もありますので、是非活用してみてください。

★環境安全全般のポスター・通知・資料は東大ポータルからご覧いただけます。ご活用ください。★

[＜https://univtokyo.sharepoint.com/sites/EHS\\_portal＞](https://univtokyo.sharepoint.com/sites/EHS_portal)

=====★7・8月に報告のあった東大の事故事例★=====

##### □注意を要する事故（！）

- ・実験室内で転倒し、打撲・目眩等の症状を負った。[23117F](#)  
居室内は十分に整頓し、コードに躓く等の事故が起こらないよう工夫してください。

##### □実験中、作業中の事故

- ・破損したガラスポットの断面で指を切創。[23122F](#)
- ・ガラス器具を破損させ、指を切創した。[23129F](#)
- ・実験中に硝酸が腕にかかった。[23133F](#)

##### □移動中の事故

- ・車両をバックさせた際、後方のポールに接触しリアバンパーを破損した。[23106Nd](#)
- ・通勤時、門の縁石に躓き転倒した。[23109J](#)

※事故詳細はこちら→「[事故災害事例一覧](#)」